

ラッセル・グループ所属大学の「機会の平等に対するリスク」 —アクセス参加プラン(APP)の検討—

沖 清豪（早稲田大学）

2018/19 年度より、イングランドでは多くの大学がアクセス参加プラン(Access and Participation Plan, APP)と呼ばれる文書を作成・公開している。APP は、その前身であるアクセス同意文書(Access Agreement, AA)と同様、当該大学が基準値(fee cap)として設定されている金額以上の学費を徴収しようと希望する場合に、学生局(Office for Students, OfS)の承認を得るために提出が義務付けられている書類である。本報告は、イギリスにおける大学入学者選抜において公正なアクセスや入学者の多様化を進める「コンテキスト（文脈）による入学者選抜(contextual admission)」が普及してきた理由の主たる要因と考えられる APP に注目し、何が問われているのかについて検証することを目的とするものである。

APP は OfS の目標の一つである「高等教育を受けるに足る能力や意思を有する、あらゆる背景出自のすべての学生が、高等教育にアクセスでき、高等教育で成功し、高等教育から社会に向かうために支援する」(OfS 2023:3)ための方策と位置付けられている。つまり、高等教育機関としての大学において、学生が入学時、在学時、そして卒業後の進路決定に必要な資質・能力の育成において公正かつ妥当な支援がなされているのかを APP によって検証することが期待されているのである。

2025/26 年度からの 4 年計画が記載されている事実上の第 3 期中期計画となる APP では、PDCA サイクルを意識した内容が求められている。APP 作成にあたっては、「機会の平等」が達成されているのかについて、OfS が開発した機会平等リスク登録(Equality of Opportunity Risk Register, EORR)で示された 12 の観点を踏まえつつ検討し、当該大学が重視しているリスクについてデータに基づいて説明し、その平等が達成されていない場合に改善策と到達目標を設定し、その成果の測定について説明することが求められている。公表されたテンプレートに基づき、APP は「序論と戦略的目標」「機会の平等に対するリスク」「目標（アクセス、中退防止、卒業、達成目標）」「実施戦略と期待されるアウトカム（その評価方法を含む）」「個別具体的な実施戦略の内容」「機関全体でのアプローチ（方策立案・実施の学内体制）」「学生への諮問」「計画全体の評価」「学生への情報提供」から構成される。

このように、イングランドの公立大学の学費値上げを承認する条件として多様な人々に対する高等教育機会の拡大を進めることを求めている APP では、学費値上げを意図する大学に、「機関へのアクセス(access)」、「学生の成功(success)」あるいは「学習の継続(continuation)」と「学業の達成(attainment)」、および「卒業後の進路(progression)」に関して機会の平等の観点から課題があることを意味する「機会の平等に対するリスク」を明記させ、それに対する対応策や対応策の成果を測定する指標を示すことが求められている。高等教育の機会の平等ないし機会の公正な拡大と学費政策とを結びつけている点で、APP は興味深い高等教育政策となっている。

すでに、有力大学の団体であるラッセル・グループ(Russell Group)に所属している大学でも、第 3 期の APP を公表し、値上げが承認された大学が確認できる。では、そうした大学で作成された APP において、どのような「機会の平等のリスク」が記載されているのであろうか。また、グループ内の大学間で APP やリスクに関する認識はどのように異なるのであろうか。実際にいくつかの大学の APP を比較してみると、認識しているリスクやその改善策の違いを確認することができる。

本報告では、Contextual Admissions を先導的に実施し、その研究の拠点となっている Durham 大学の APP に記載されている機会の平等に対するリスクとその対応策・成果指標に注目しつつ、ラッセル・グループ所属大学の APP で示されている「機会の平等のリスク」について整理することとしたい。

OfS(2023) Regulatory notice 1: Access and participation plan guidance, OfS.

※ 本研究は JSPS 科研費 JP23K02118 の助成を受けたものです。